

公園・街路樹の適正化とまちづくり

自然・環境科学研究所 自然環境系 環境計画研究部門 赤澤 宏樹

キーワード

小規模公園の包括管理、街路樹適正化計画、コミュニティ形成、官民連携

研究概要

人口減少や少子高齢化をふまえ、社会システムやインフラを適正化する必要があります。公園緑地も例外ではなく、急速な都市整備に伴って脆弱な生育基盤のまま高密度に植栽された樹木が、倒木などの危険性を含み問題になっています。一方で、働く場の選択肢が広がる中で、きれいな空気や美しい公園、快適な歩行空間は贅沢品とは思われておらず、子育て、仕事、健康、コミュニティ、にぎわいに不可欠な条件となっています。これから市民に選ばれるまちであるために、価値を高める適正化の手法を研究しています。

公園については、官民連携(PPP:Public-Private-Partnership)の制度が近年発達し、市民協働も継続しており、共に価値を生み出す「共創」の考え方の元で政策・施策立案、各種構想・計画策定支援から事業推進方策まで扱っています。近年は、小規模公園群の包括管理に重点を置いています。街路樹については、適正化計画の策定を中心に、官民連携の維持管理手法として発注方法の改善にも取り組んでいます。公園緑地全体としては、整備・管理運営費を確保する方法として、目的税や協力金など納付制度の研究を進めています。

アピールポイント

学術研究に留まらず、審議会・委員会への参画やアドバイスなど、シンクタンク活動も重視しています。

応用分野

都市計画、公共政策、住民主体のまちづくり
